

かはんさきゅう
河畔砂丘について

1. 河畔砂丘とは

内陸の河川沿いに出来る砂丘。砂丘形成のためには多量の砂の供給が必要となるため、大河川沿いにできやすい。また、一定期間、特定の方向から風が吹き続ける必要がある。

国内で河畔砂丘が見られる地域は、北上川、木曽川、鬼怒川など冬季の季節風が卓越する太平洋側の大河川沿いである。

2. 旧利根川筋の河畔砂丘

旧利根川沿いの河畔砂丘は、江戸時代に利根川が銚子方面に流れる以前、利根川が東京湾に流れていた時代の流路沿いに形成されている。

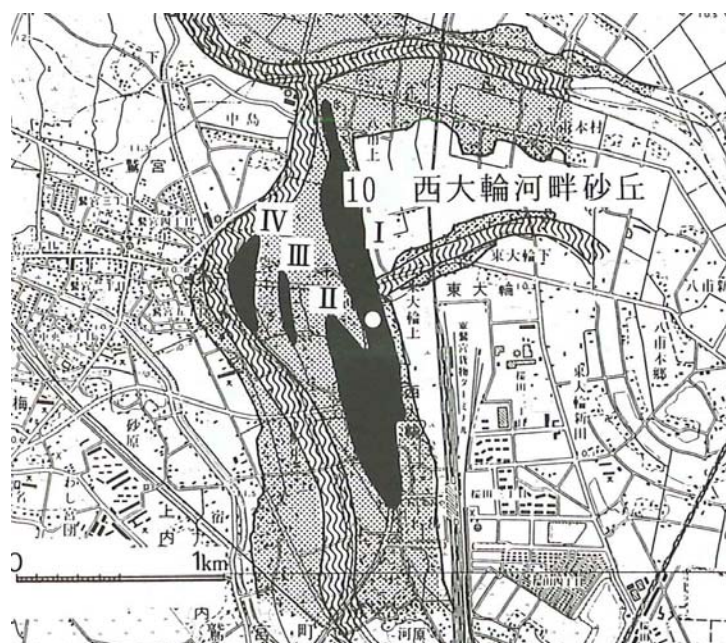
北西から吹く冬季の季節風の影響により、流路の南～東側に形成されている。

砂丘の形成時期は、春日部市の浜川戸河畔砂丘の砂丘基底近くで平安時代の土器が出土し、砂丘上部に鎌倉時代後期の墓が作られていることから、平安時代から鎌倉時代頃であると考えられている。

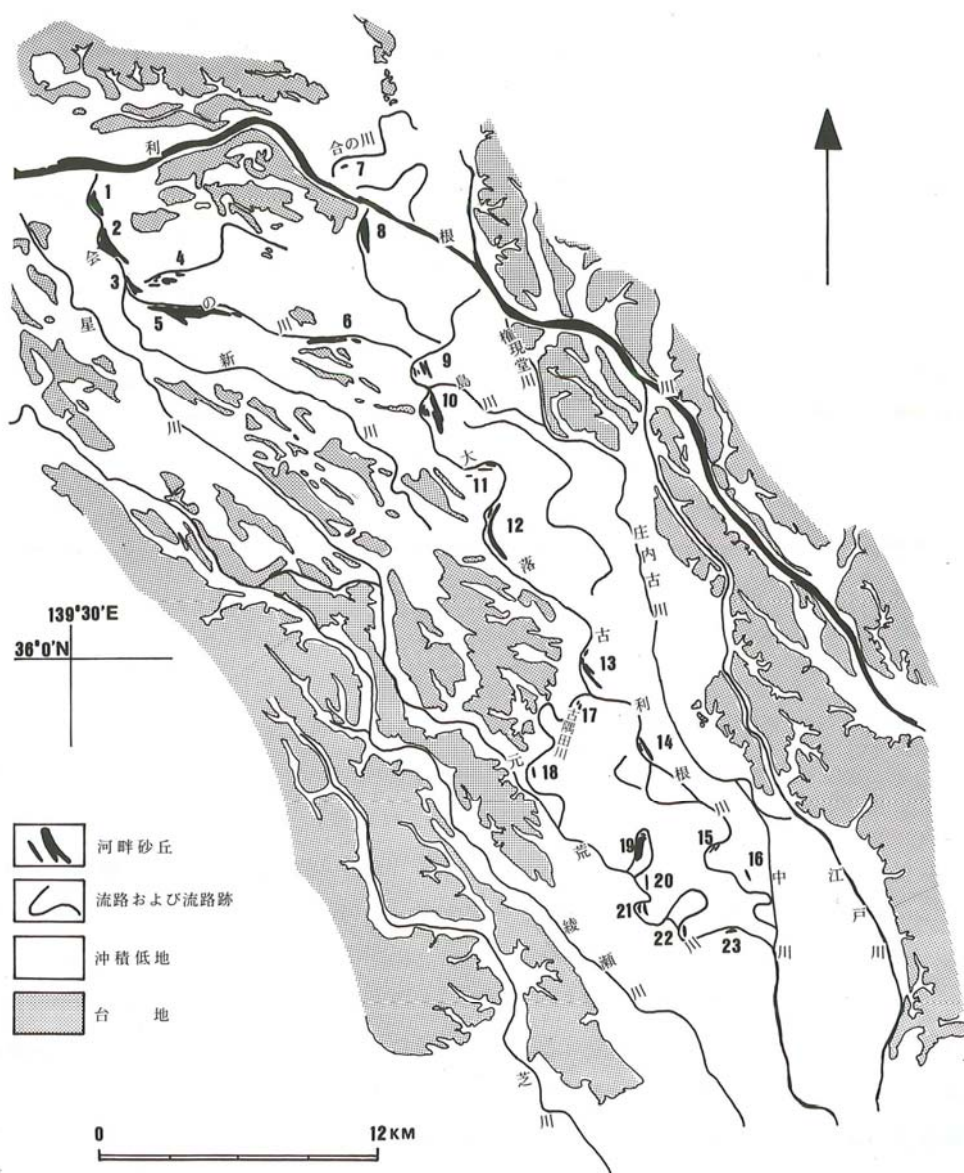
3. 西大輪の河畔砂丘

旧流路の東側に、直線的に4列の砂丘が並ぶ。最大の砂丘（I）は長さ約 1,600m、幅約 150mあり、周囲の低地部より、最大で 6.6mの比高差がある。

形成時期を確定できる資料は見つかっていない。



西大輪の河畔砂丘（『中川水系 総論・自然』より転載）



	名称	最高点の標高	低地との比高	砂丘列の数	最大列の形態	最大列の長さ と 幅	その他
1	新郷	26.0m	8.0m	3	湾曲状	1,100m, 125m	
2	岩瀬	24.6m	7.5m	3	ゆるい湾曲状	1,700m, 100m	列が収束する
3	砂山	22.8m	5.1m	4	ゆるい湾曲状	850m, 65m	流路と斜交する列がある
4	須影	21.1m	5.6m	6	直線状	530m, 50m	
5	志多見	21.5m	6.2m	5	直線状	2,550m, 250m	流路と斜交する列がある 列が収束する
6	南篠崎	19.2m	7.5m	1	ゆるい湾曲状	2,700m, 50m	
7	飯積		2.0m	1	直線状	520m, 100m	
8	原道	24.8m	11.3m	1	直線状	1,400m, 180m	
9	高柳	18.7m	7.4m	4	直線状	850m, 75m	
10	西大輪	17.2m	6.6m	4	直線状	1,600m, 150m	
11	青毛		2.5m	3	直線状	720m, 70m	
12	高野	14.4m	7.2m	2	湾曲状	2,800m, 85m	
13	小淵	18.1m	9.7m	3	ゆるい湾曲状	1,300m, 65m	列が収束する
14	藤塚	8.0m	3.0m	2	ゆるい湾曲状	850m, 100m	
15	松伏		2.0m	2	直線状	450m, 50m	
16	上赤岩		2.0m	1	直線状	320m, 70m	
17	浜川戸		4.5m	2	直線状	200m, 50m	
18	長宮		2.0m	1	ゆるい湾曲状	250m, 50m	
19	袋山		2.4m	1	直線状	1,200m, 300m	
20	大林		3.0m	1	直線状	550m, 40m	
21	北越谷		2.0m	2	ゆるい湾曲状	480m, 50m	
22	東越谷		6.1m	1	直線状	500m, 70m	
23	大相模		2.0m	1	ゆるい湾曲状	520m, 70m	

